

## A

## 9 | 笠原商業開発協同組合

火災復旧後、新機能を持つ共同店舗マインをスタート

住 所	〒507-0901 岐阜県多治見市笠原町2469番地2		
U R L	<a href="https://kasahara-mine.com/">https://kasahara-mine.com/</a>		
設 立	昭和60年12月	主 な 業 種	小売業・サービス業を行う事業者
組 合 員 数	3人	出 資 金	32,720千円

## ■背景・目的

多治見市笠原町を商圏としたショッピングセンターの運営を目的とした組合を昭和60年に設立し、翌年「笠原ショッピングプラザMINE（マイン）」をオープンした。その後、数度のリニューアルを経て長年地元住民に愛されてきたが、平成27年に火災事故により全焼し大規模改装が必要となった。来店者や従業員等の人的被害は免れたものの、屋上に駐車してあった来店者の車の補償、従業員への休業補償、約1億円の高度化資金の返済等、施設復旧に関する多くの課題に直面することとなった。一方で、近隣への競合店舗の新規出店も相次いでおり、単なる復旧のみならず差別化を図った施策も不可欠であった。

## ■取組みの手法と内容

施設復旧の資金面においては全体で約6億円が必要であったが、火災発生前から地元金融機関と関係性を構築していたことにより1.5億円を調達することができ、火災保険で4.5億円調達することができた。また、高度化資金約1億円の借換えも可能となった。

施設の内装材の一部を、地場産業であるタイル組合の組合員等27社に理事長が自ら声を掛けたことで、再建に使用するタイルの無償提供を受けることが出来た。

復旧・再スタートまで地域の顧客の利便性を低下させないよう毎日朝市を開催するほか、半年間仮設店舗での営業継続など販売を継続する工夫をした。これは復旧中の顧客離れを防ぐとともに、顧客からのさらなる信頼獲得につながった。

平成29年の再スタート後は近隣競合店との差別化を図るため、令和3年に料理教室やパーティー会場として利用できるよう「マインキッチンスタジオ」をオープンした。壁面には地元タイルをふんだんに使用し、タイルの魅力を発信している。また、地元クリエイターの商品（陶器、タイル、小物など）を販売する「チャレンジショップ」を設けた。ほかにもシェアサイクルを設置し、「多治見市モザイクタイルミュージアム」を訪れた観光客に立ち寄ってもらえるよう集客効果を高めている。

## ■成果とその要因

地域密着を重視する事業運営により、競争環境の激化や地域人口の減少が起きるなかでも火災発生前の売上げと集客を維持している。火災発生を契機として、今後の売上高や来店者の更なる向上が十分に期待できる。



再建前(左)と再スタート(右)したマインの建物の外観



料理教室やパーティー会場に利用



火災復旧後、新機能を持つ共同店舗をスタート出来たのは、顧客のために毎日の朝市や仮設店舗での営業継続を通して、笠原町の住民との強い信頼関係が構築されたためである。